

2020 年度

もしもを生き抜け！車バイバルキャンプ

# 実施報告書

【実施日時】 2020 年 11 月 14 日（土）13:00 ～ 15 日（日）15:00

【会場】 トヨタ白川郷自然学校（岐阜県大野郡白川村馬狩 223）

【主催】 トヨタ自動車株式会社、トヨタ白川郷自然学校

【協力】 72 時間サバイバル教育協会



## 【開催趣旨と結果概要】

様々な災害が頻発し、避難所が利用できない状況も発生している今日、ストレスのかかる車での避難生活を余儀なくされることが増加しています。限られた資材で睡眠、食事をとるには何が必要か、年齢や人数など、家族の構成によって求められる避難環境は変化します。そうした災害時に対応できるよう、車で避難生活することを想定し、実際に家族で過ごすことを体験するイベントとして開催いたしました。家族を守り、もしもの時には自分で考え、行動できるようになる人を育てることを目的としています。参加者には自家用車や身の周りにあるものを活用して、不便を乗り越える術を体験していただき、その結果、多くの方から「災害が多発している中大変タイムリーな企画であり、得られた学びや気づきを実践に繋げたい」との声をいただきました。

### 1.実施概要

- ・名称           もしもを生き抜け！車バイバルキャンプ
- ・開催日程      2020年11月14日（土）～11月15日（日）2日間
- ・開催時間      2020年11月14日（土）13:00～11月15日（日）15:00
- ・開催場所      トヨタ白川郷自然学校
- ・主催           トヨタ自動車株式会社、トヨタ白川郷自然学校
- ・協力           72時間サバイバル教育協会

#### ・開催意義

頻発する自然災害や After コロナなど社会課題に貢献する独自プログラムを開発する。災害に遭遇しても挫けず前向きに考え、自らの意思決定と行動に主体性を持ち、生き抜ける人を育てる。

- ・対象者       小学生以上
- ・参加者数     11組26名
- ・実施内容（当日スケジュール）

#### 【1日目】 11月14日（土）

- 13:00 オープニング
- 13:40 災害に備える基礎知識、車中泊に関する注意点
- 14:20 車を活用して避難生活空間づくり
- 16:10 火おこしチャレンジ、夕食（焚き火で災害めしづくり）  
焚き火を囲みながら家族で相談タイム
- 19:10 エコノミークラス症候群予防体操
- 19:30 入浴、就寝（車中泊）

#### 【2日目】 11月15日（日）

- 7:15 エコノミークラス症候群予防体操
- 7:40 朝食（保存に便利な粉物でお手軽災害めしづくり）
- 9:40 より快適な避難生活空間づくり
- 12:00 昼食（災害時でも作れるオリジナルカレーづくり）  
改良した避難生活空間で過ごす
- 14:15 我が家の決意表明、クロージング、修了証授与
- 15:00 解散

## 2.実施結果

### ①参加車種

1人での参加から家族、夫婦、友人同士など、幅広い層にご参加いただき、多様な車が集まりました。  
(参加車種：ミニバン6台、SUV1台、スポーツカー1台、軽四駆1台、コンパクトカー1台、1BOX1台)



家族3人でSUVに宿泊



1人でワンボックスでの手慣れた車中泊



スポーツカーでの車中泊に挑戦した親子



家族5人でミニバンとテントを併用して宿泊

## ②目的・目標

自然体験教育に関する情報発信や人材育成に貢献するため、トヨタ白川郷自然学校の運営理念に基づき目的と目標を設定しました。

### 目的

災害に遭遇しても挫けず前向きに考え、自らの意思決定と行動に主体性を持ち、生き抜ける人を育てる。

## 目標と結果

### 1. 車中泊の正しい知識とノウハウを身につける



#### 【活動内容】

##### ・「災害に備える基礎知識」

講師による災害時の避難生活と車中泊についてのレクチャー。

満足度：4.5点 ※アンケートの平均値、5点満点

##### ・「避難生活空間づくり」

家族ごとに自家用車で避難空間をつくり車中泊を実施。

満足度：4.6点

#### (アンケートより一部抜粋)

- ・思っているだけではわからなかったことが体験してよくわかった。車の傾斜等。
- ・熟睡がむずかしい。敷くものと枕が重要アイテム。
- ・少しのやりにくさが一晩中だと大きな障害になることがわかりました。
- ・車中泊はとても大変で、普段の生活のありがたさを知りました。フラットにするために、どうしたらよいか考えていきたいです。
- ・足を水平以上にするなど、知らなかったことも教えていただいて勉強になりました。

## 2. 災害めしなどのサバイバル体験から、自助力を身につける



### 【活動内容】

#### ・「災害めしづくり」

- 1 日目夕食 火をおこし、焚き火と空き缶で炊飯。
- 2 日目朝食 ビニール袋調理（蒸しパン、オムレツ）。
- 2 日目昼食 ビニール袋調理（創作カレー、ご飯）。

満足度：4.8 点 ※全活動の中で最高点

### 【成果】

自助力を高められた、もしくは今後自助力を高めていきたいという意識付けとなりました。

（アンケートより一部抜粋）

- ・体験したことにより、準備することを知った。今のうちに手が打てる、自助を身に着けていきたい。
- ・自分で考える大切さ、知識の大切さを学びました。物がなければ頭をつかう。
- ・自助力を高めるための答えのないイベントがよかった。
- ・夏の場面ではどうなのか、など様々な場면을体験してみたい。
- ・火おこしなどのアウトドアスキルを身に着ける事が災害時の自助力につながっていた、今後購入して使ってみたいアウトドア用品ができた。

## 3. オリジナルプログラムを社会へ発信、価値向上



### 【広報実績】

- ・中日新聞飛騨版、読売新聞岐阜版掲載
- ・NHK まるっとぎふ放送

### 【課題】

〈プログラムについて〉

- ・内容が難しく子ども達が飽きてしまう場面がありました。今後は大人向けの内容と家族全員で取り組む内容を分ける事を検討します。

例) 大人が防災の話をする間、子どもは森でサバイバル体験等

〈情報発信、価値向上について〉

- ・イベント参加者にしか情報が伝わらないことから、イベントやウェブを利用した情報発信を検討します。

例) 地域行政と連携した日帰りイベントの実施

リスクを最小化した車中泊の手法を示したマニュアルや動画のウェブ発信等

### 3.実施プログラム詳細

#### 【①災害に備える基礎知識】

講師の片山氏と、トヨタ自動車災害ボランティアチームの窪田氏より、災害による避難で大切なこと話し合い、参加者全員で共有しました。

#### 「災害時の避難について」 72時間車バイバル教育協会 片山氏



災害の種類に合わせた避難方法や、車を使った避難のメリットデメリットをテーマに11組の参加者のイメージを共有しました。それぞれ自分の地域で特に気にしている災害の種類や不安なこと、困っていることなどを出し合い、今回のキャンプでどんなことを体験してみたいか発表していました。災害による避難を経験している参加者もあり、体験談を聞ける良い機会となりました。

#### 「車中泊について」 トヨタ自動車災害ボランティアチーム 窪田氏



災害ボランティアの経験から、車中泊による体への負荷や精神的な苦痛が生じる被災地の現状を写真付きで説明されました。またエコノミークラス症候群の発生原理の説明と、予防策である「車中泊では足を上げて寝る空間を作ること」、「水を飲むこと」、「トイレを我慢しないこと」を徹底する低リスクの避難を呼びかけました。今回の車中泊生活は快適な車キャンプとは全く違う、リアルな体験であることを参加者と共有する時間となりました。

## 【②車を活用した避難生活空間づくり】

車中泊空間を自分たちで作りに上げて1泊してみる、今回のキャンプのメインとなる体験です。

### 車中泊空間の作成



実際の避難を想定し、自家用車と各自が持ってきた資材を使用して、家族全員が寝泊まりできる空間を作成。ワンボックスカーからスポーツカーまで、様々な車種で臨み、段差のないシートアレンジやクッションの工夫を凝らしました。氷点下になる夜間をしのぐため、断熱と保温対策にも取り組んでいました。ご家族毎に全く異なる避難条件を自ら考え、工夫し解決していく体験でした。

### 車中泊体験



夜の外気温は-4℃に達し、寒さで目が覚めて追加の寝袋や銀マットを用意するご家族や、車に併設したテントの寝心地が悪く、途中で車に移動しているご家族もあり、苦労の様子が見られました。特に足元の冷えがつらく、全体の半分程の方は夜に何度か目が覚めたとのことでした。また、わずかな凸凹による寝心地の悪さが、一晩続くと辛かったという声もありました。体験してみて初めて得られる学びのある1泊となりました。

### 作り上げた車中泊空間の発表



ご家族毎にそれぞれの車中泊空間を発表し、家族構成、車種や資材の違いをリアルに反映した生の声を聴くことができました。特にクッションのズレや冷気の侵入など、多くの方が経験した失敗は、今後重要な改良ポイントになると思われます。また、目新しいシートアレンジや他車の実例情報が取れ、今後のイベントに役立てるとともに、車開発サイドへのフィードバックも検討していきます。

### 【③火おこし、食事づくり（夕・朝・昼）】



#### 火おこし

当日の 17 時の気温は 9℃と肌寒く、絶好の焚き火日和となりました。なぜ火をおこすのか、どんな便利なことがあるのかといった必要性から考え、ご家族ごとに火おこしに挑戦していただきました。また、講師の片山氏からファイヤースターターのレクチャーがあり、最初は皆さん苦戦されていましたが、無事着火に成功したお子さんはとても誇らしげな表情でした。



#### 焚き火で夕食づくり

火おこしの火を活かして、空き缶を使った炊飯に挑戦。普段使用される炊飯ジャーでは意識することのない、水の量や火加減をご家族でワイワイと相談している姿が多く見られました。出来上がった感想を聞いてみると「想像以上に早くてビックリ」「ただの空き缶でもご飯が炊けるんですね」といった驚きの声がたくさん聞こえました。



#### 朝食づくり

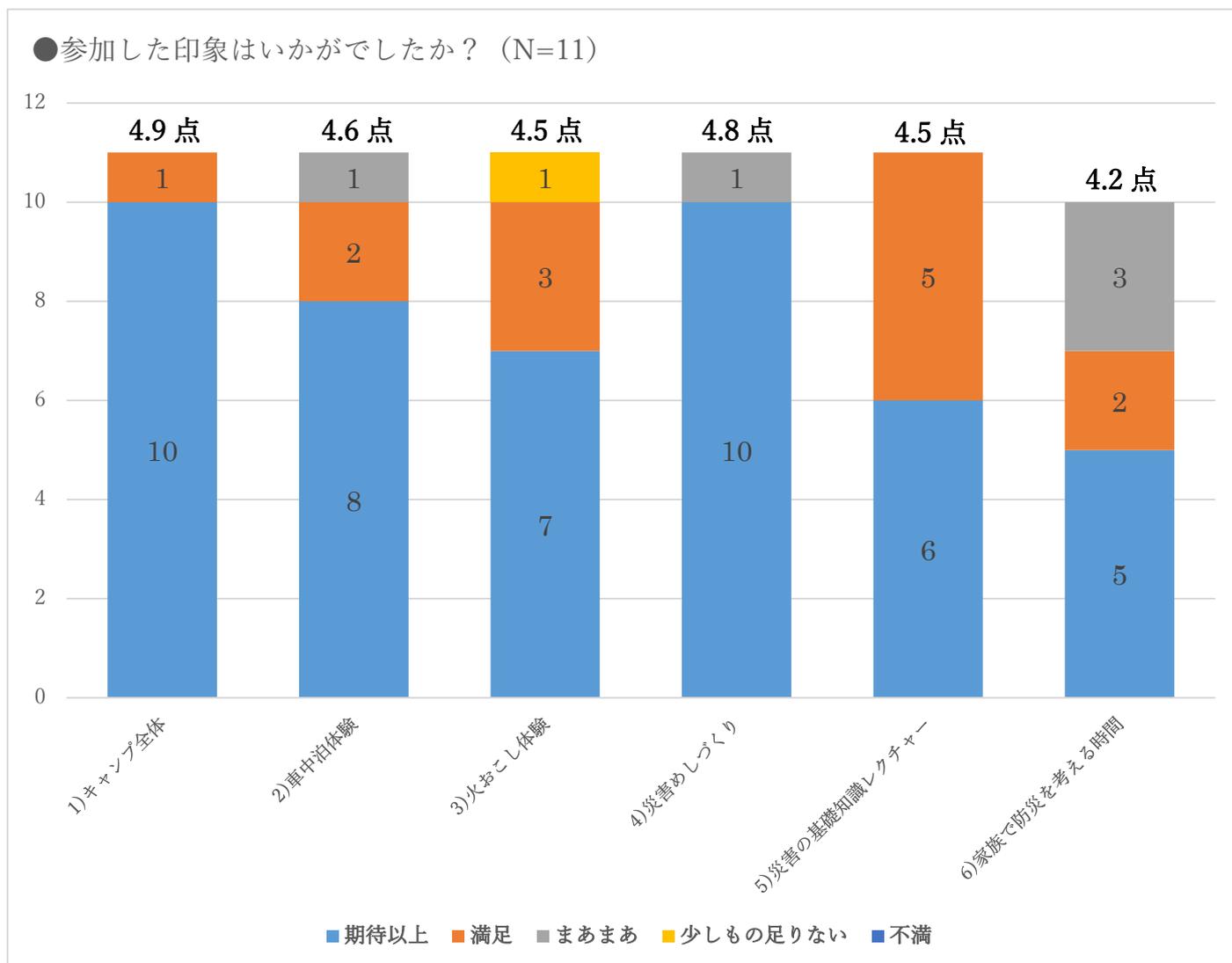
朝食のメニューはホットケーキミックスで作る蒸しパンとオムレツ、インスタントスープを作っていただきました。皆さんが 1 番苦戦されていたのは、お湯を沸かすことでした。ひと晩外に置いてあったウォータージャグから出る水温は凍ってはいないものの一桁台。持参した家庭用カセットコンロでは火力が足りず使ってみて「これじゃいざという時にダメだなあ」と新たな気づきを得ている方もいらっしゃいました。



#### 昼食づくり

昼食のメニューはポリ袋を使った創作カレーと炊飯にチャレンジしていただきました。カレー粉はどの家庭にもある定番材料ではないでしょうか。それにお菓子やおつまみを合わせた工夫の溢れるカレーができあがりました。3 食目にもなると、皆さん慣れたもので、コンロの周りに風よけを作ってみたり、川の水で調理をされたり、袋のまま食べて洗い物を削減したりと気づきや創意工夫の溢れる昼食となりました。

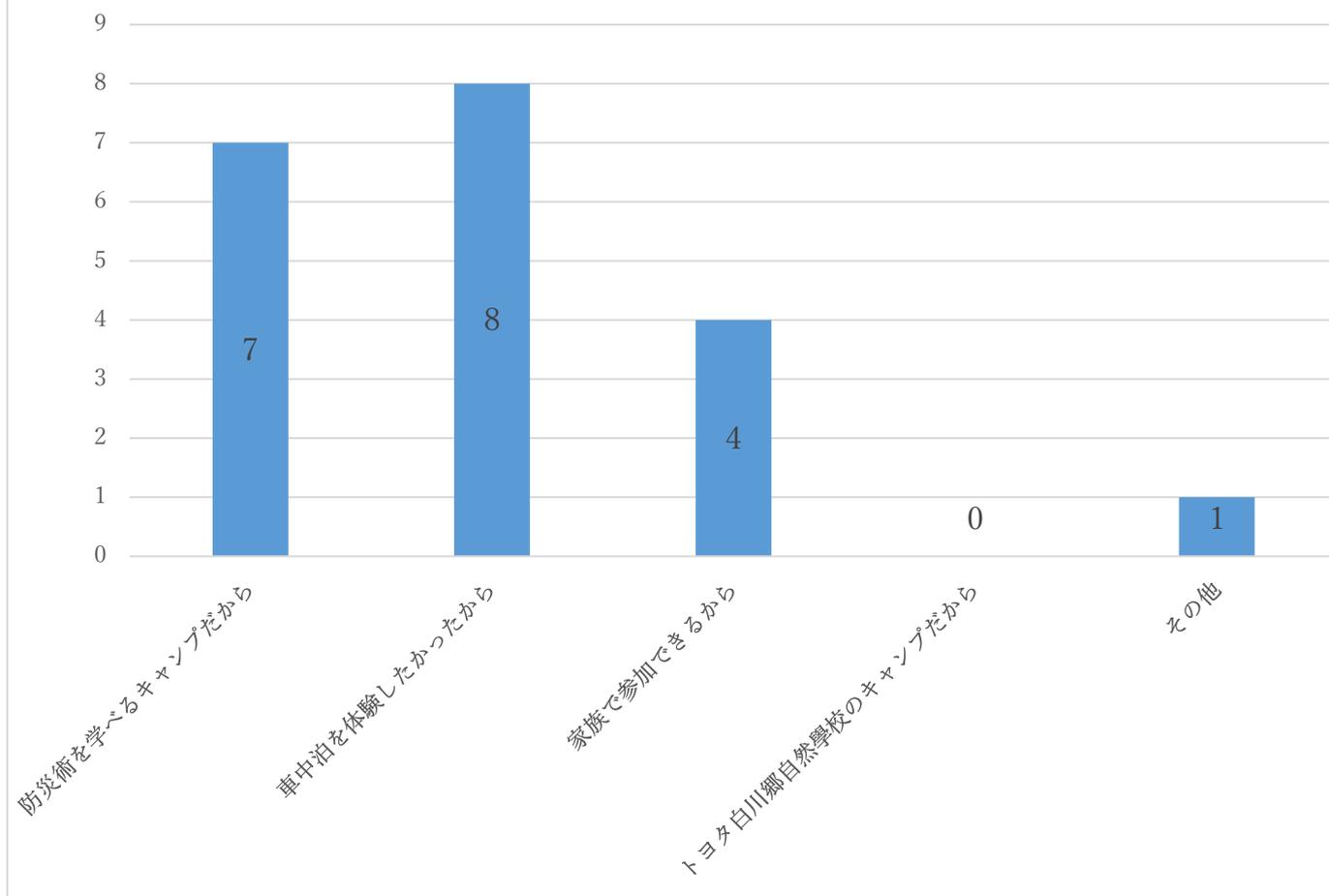
#### 4.参加者アンケート結果（参加した11組の全組が回答）



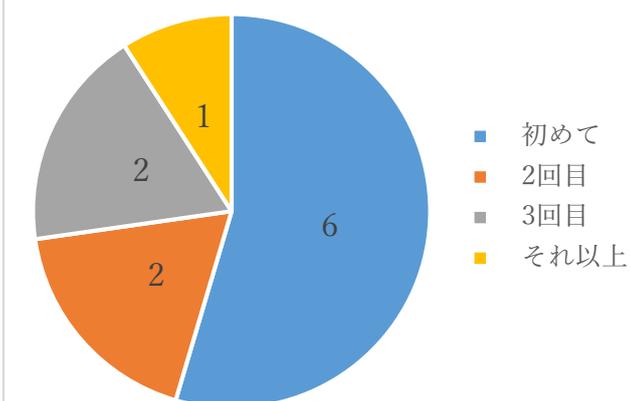
#### ●評価の理由

- ・とても良かったです。知らない事が多く実際に体験する事で身につく気がしました。
- ・自分で考えることがいろいろあったが、イベント内で自分たちのふりかえりがしっかりできなかった。（片付けなどでばたばたしてしまった。）他の人の工夫を学べた。
- ・スタッフが良かった。
- ・非常食に対する固定観念をくつがえされました。車中泊は実際に体験して新たな気づきを得られました。
- ・実際にやってみると気づきがあった。サポートがあつてとても良い環境でした。
- ・全体的にすばらしい体験が出来ました。自分で考える大切さ、知識の大切さを学びました。
- ・すべてが初めての体験で、本当に勉強になりました。
- ・車中泊はとても大変で、普段の生活のありがたさを知りました。フラットにするために、どうしたらよいか考えていきたいです。
- ・身のまわりのものをうまく使うことを教えていただきました。また、車中泊についても、足を水平以上にするなど、知らなかったことも教えていただいて勉強になりました。
- ・多くの事を経験できてよかったです。
- ・用意したものが、どれだけ効果があるか、改めるところはどこかが分かりよかったです。気づきは多い。

●参加しようと思った決め手は何でしたか？（複数回答）



●車中泊経験（N=11）



●エコノミー症候群などのリスクを知っていたか（N=11）



●車中泊を経験した上での感想や気づき

- ・今でも心配ですが、ぶっつけ本番よりも 100 倍ましになると思います。
- ・思っているだけではわからなかったことが体験してよくわかった。車の傾斜 etc.
- ・足元が寒い。
- ・熟睡がむずかしい。敷くものと枕が重要アイテム。
- ・少しのやりにくさが一晩中だと大きな障害になることがわかりました。

## ●感想

- ・子供も大人も楽しみながら防災体験が出来ました。ありがとうございました。
- ・いざという時の心の準備、備品の準備ができました。
- ・大変有意義な2日間でした。色々と気づきや学びがありました。スタッフの皆様ありがとうございました。
- ・評価の理由に同じです。サポートのおかげで良い思い出づくりができました。今後の実践につなげます。
- ・体験してみないと分からないことばかりで、何ごともしてみる、を繰り返していきたいと思います。スタッフのみなさま本当にありがとうございました。
- ・とても勉強になりました。また夏の状況では…など、様々な場면을体験してみたいです。
- ・今回は2人での参加でしたが、来れなかった2人も含め4人でも参加してみたいです。
- ・自助力を高めるための答えのないイベントが良かったです！
- ・新たに知ることも多く、楽しく学べました。

## ●今後災害に備え、身につけておきたいと思うスキル・体験

- ・少ない備え、限られた物資でのサバイバル。
- ・災害食づくり
- ・サバイバルスキル
- ・1週間災害めしを続けられる自助力
- ・サバイバルの生きる力。子供に生きるちからをつけてもらう。
- ・身のまわりにあるものを工夫して使うスキルを身につけたい。今回は車中泊でしたが、違った状況も考えてみたい。
- ・テント泊を行ってみたいです。
- ・火おこし
- ・非常時の調理の確実性